

2003年3月期 第3四半期 業績概要

2003年1月30日
アンリツ株式会社
常務 中井 健夫

2003年3月期 第3四半期業績概要

(1) 全社

単位: 億円 ()は前年同期比増減額

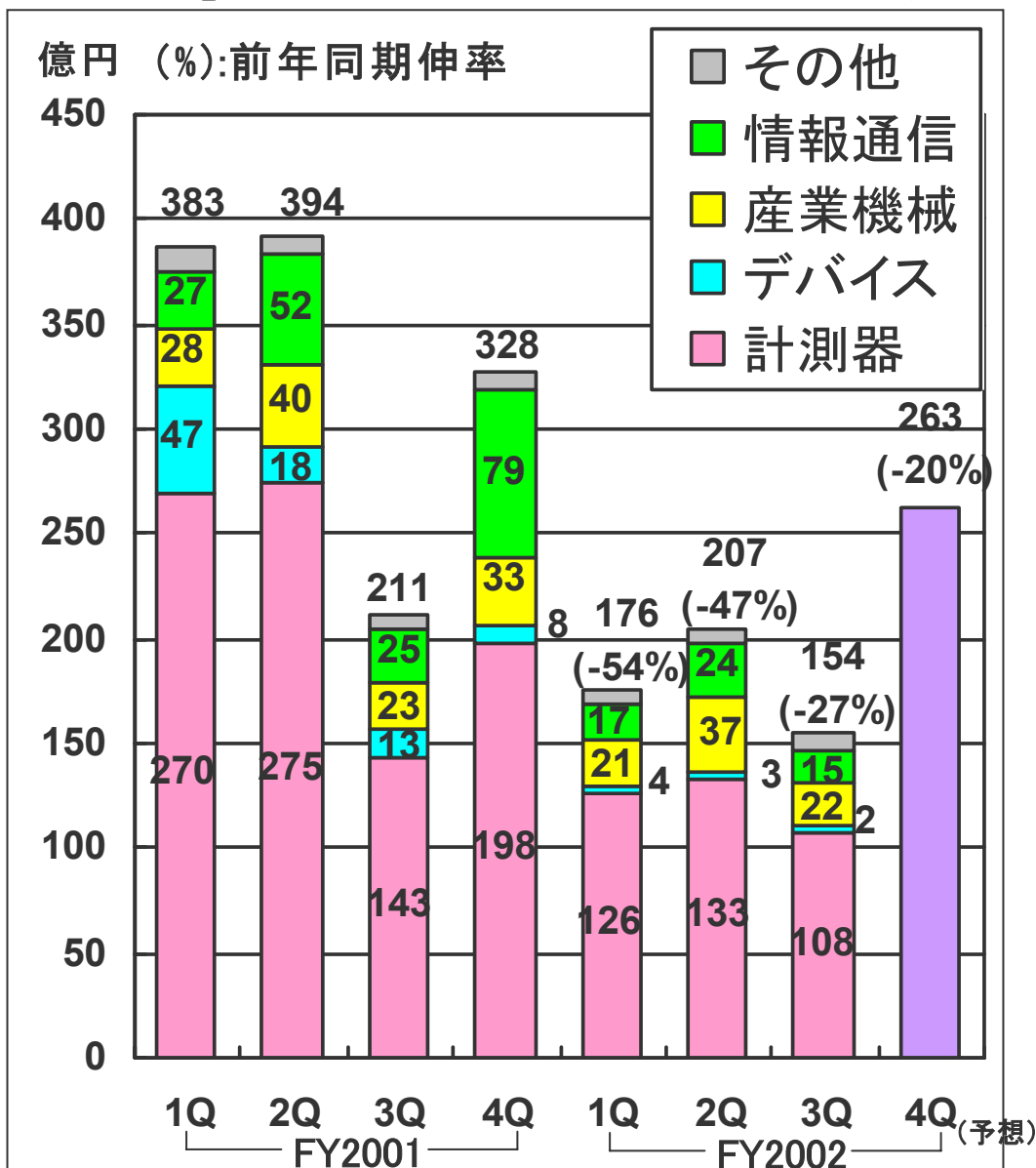
	中間期		第3四半期(4月～12月)	
	連結	単独	連結	単独
売上高	383(-394)	210(-352)	537(-451)	286(-387)
営業利益	△ 54(-178)	△ 67(-157)	△ 94(-168)	△ 105(-146)
経常利益	△ 72(-170)	△ 72(-154)	△ 116(-175)	△ 111(-156)
純利益	△ 166(-232)	△ 138(-191)	△ 219(-259)	△ 183(-215)
FCF	△ 21(+23)	△ 63(-20)	△ 34(+96)	△ 11(+82)

(2) 事業セグメント別(連結)

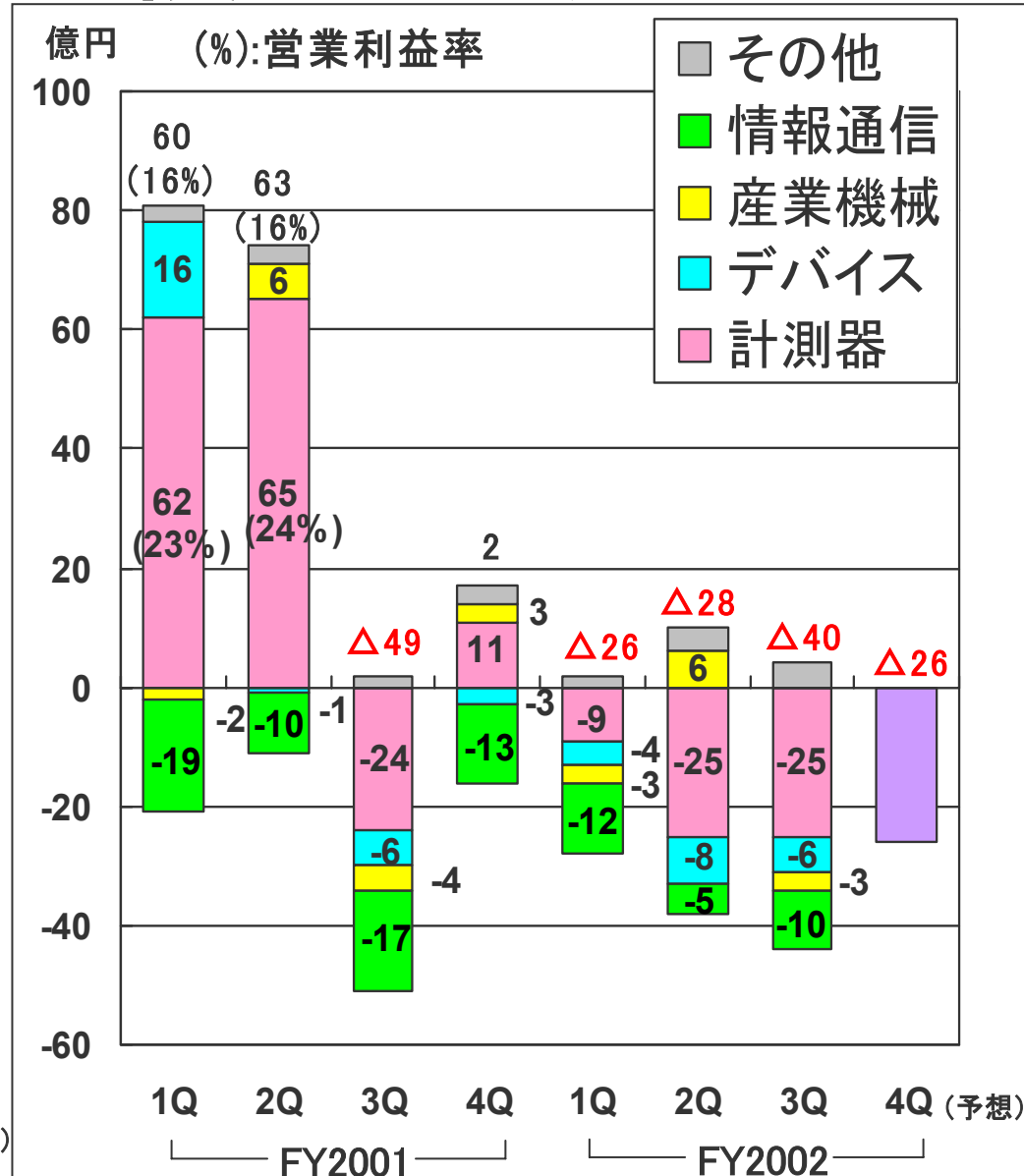
単位: 億円 ()は前年同期比増減額

	中間期		第3四半期(4月～12月)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
情報通信機器	42(-38)	△ 17(+12)	57(-47)	△ 27(+19)
計測器	259(-286)	△ 34(-160)	366(-321)	△ 59(-162)
デバイス	7(-58)	△ 12(-27)	9(-69)	△ 17(-27)
産業機械	58(-9)	2(-1)	80(-10)	-(-)
サービス他	17(-3)	5(-1)	24(-3)	9(+1)

事業セグメント別業績(四半期比較)



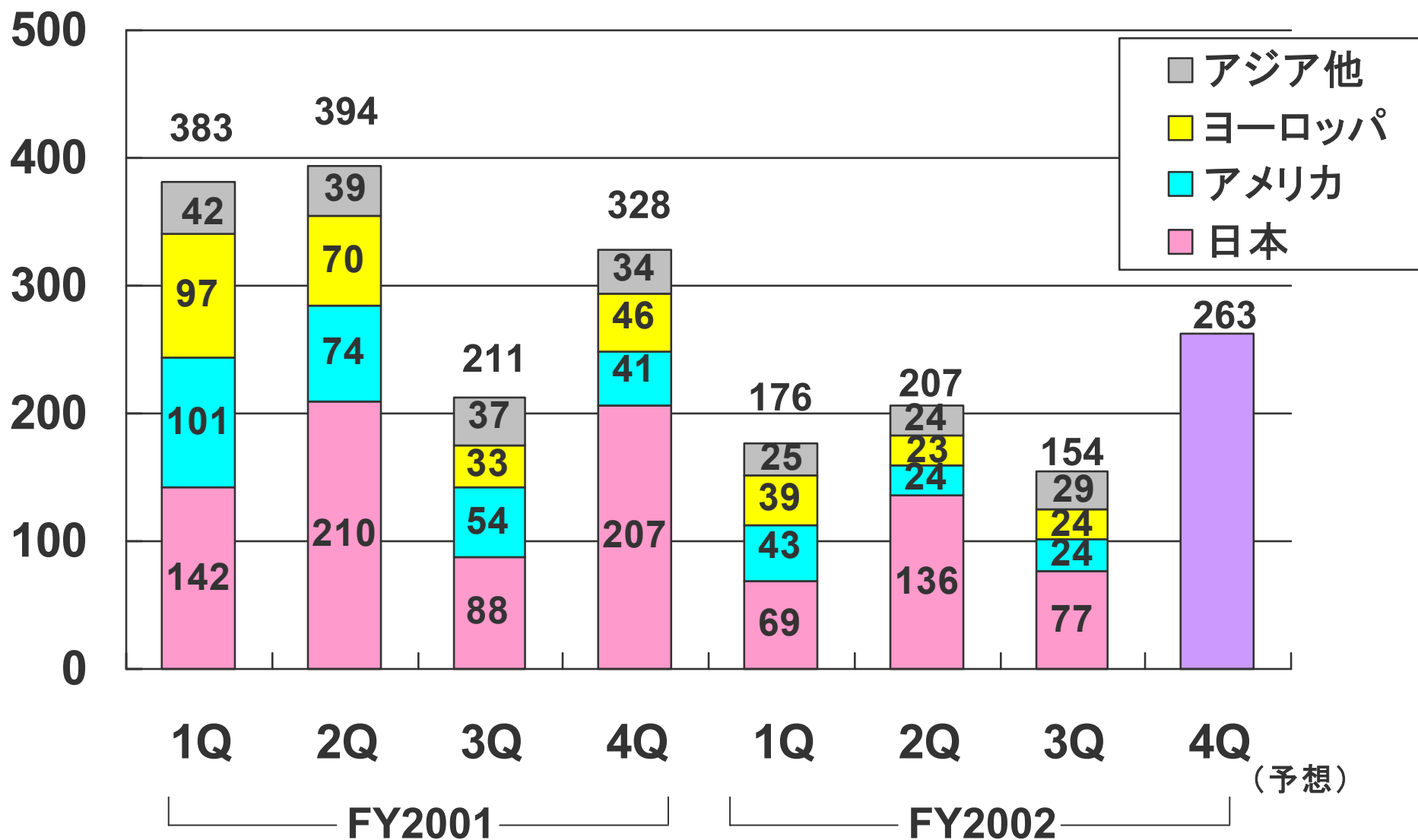
売上高



営業利益

地域別売上高推移（四半期ベース）

単位：億円

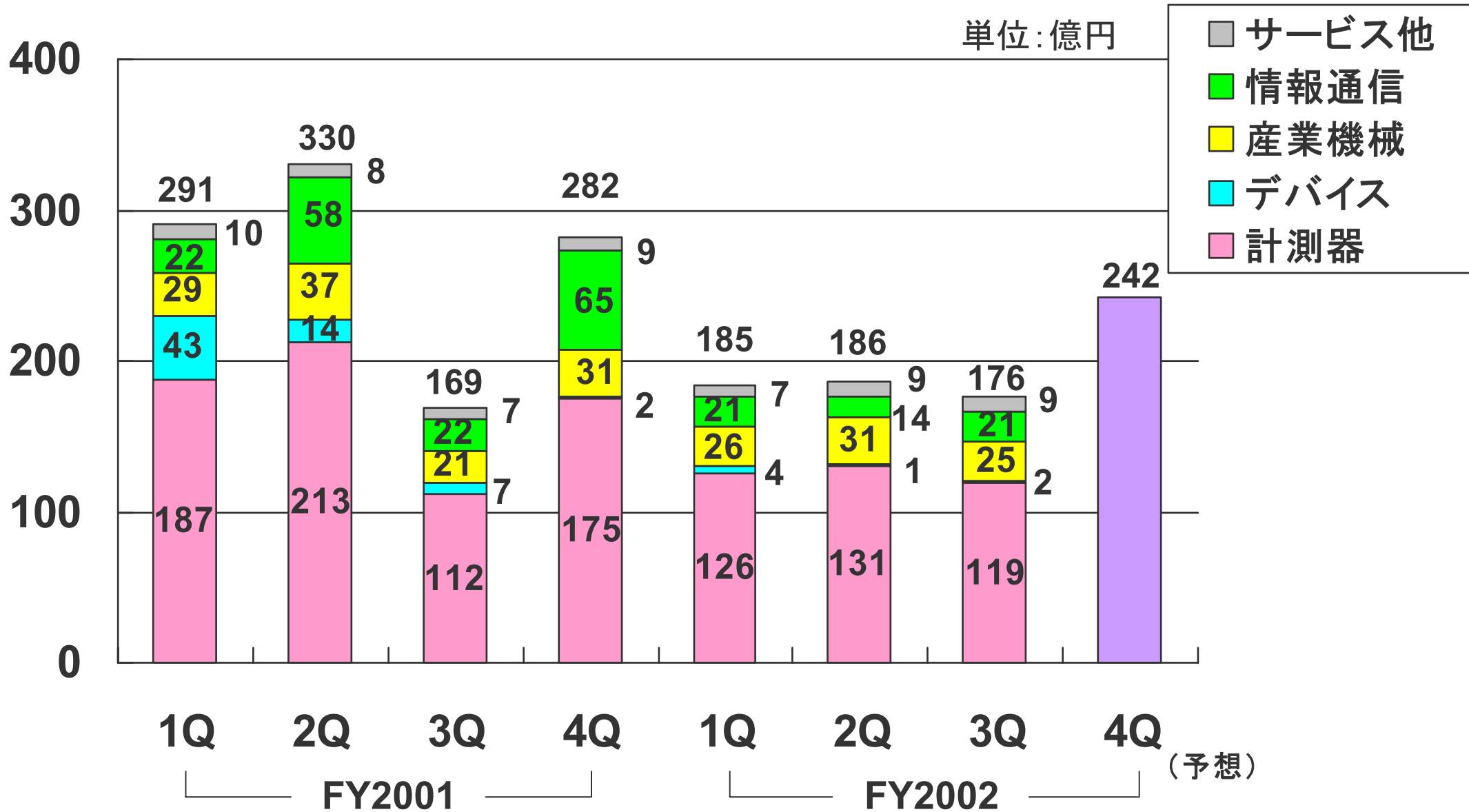


営業外・特別損益概要(連結)

(百万円)

	第3四半期(4月～12月)		通期	
	2001/12 実績	2002/12 実績	2002/3 実績	2003/3 予想
営業利益	7,381	△9,409	7,585	△12,000
金融収支	△769	△684	△908	△1,100
資産廃棄評価損等	△1,512	△1,397	△2,673	△1,900
為替差損益	1,109	△228	1,345	
その他	△294	106	△405	
営業外損益計	△1,466	△2,203	△2,641	△3,000
経常利益	5,915	△11,612	4,945	△15,000
退職給付関係	1,387	6,229	1,387	6,200
特別退職金等		△5,043		△11,000
棚卸資産評価損等		△13,111		△13,200
その他	437	△954	△63	△1,000
特損益計	1,824	△12,879	1,324	△19,000
税引前損益	7,738	△24,491	6,269	△34,000
当期純損益	4,038	△21,897	2,566	△31,000

セグメント別受注推移（四半期ベース）



2003年3月期 年度業績見通し

(1) 全社

単位: 億円 ()は前期比増減額

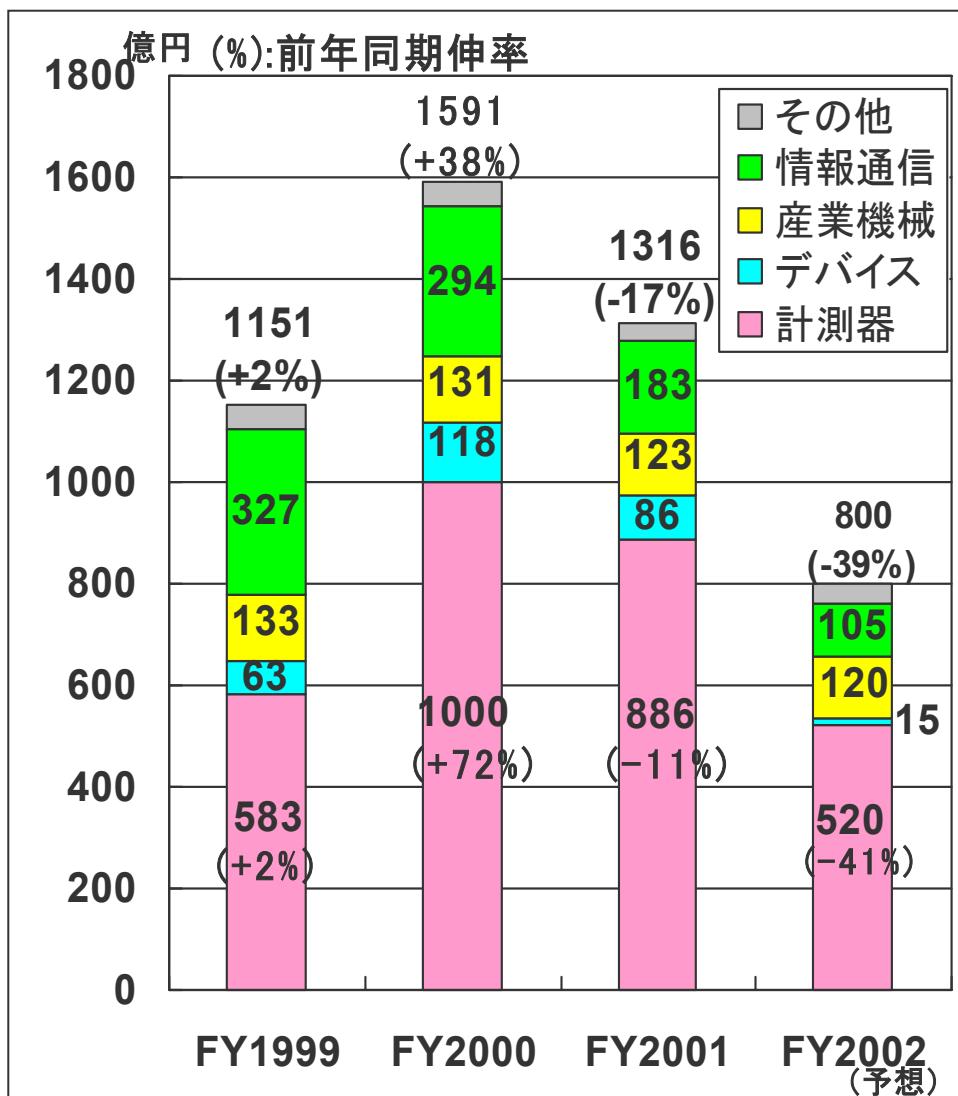
	連 結		単 独	
売上高	800	(△ 516)	440	(△ 470)
営業利益	△ 120	(△ 196)	△ 130	(△ 180)
経常利益	△ 150	(△ 199)	△ 145	(△ 197)
純利益	△ 310	(△ 336)	△ 270	(△ 305)
FCF	△ 180	(△ 83)	△ 200	(△ 206)

(2) 事業セグメント別(連結)

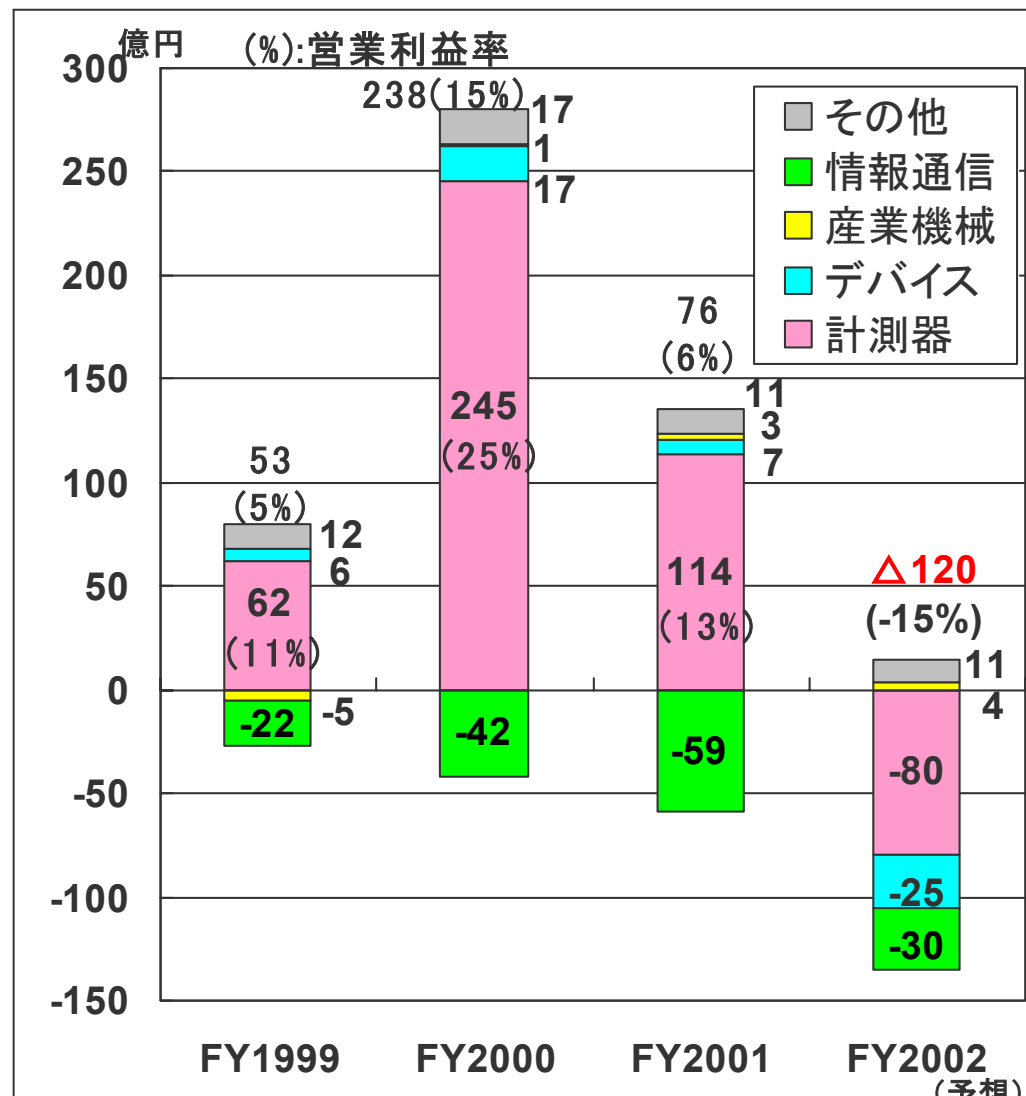
単位: 億円 ()は前期比増減額

	売上高		営業利益	
情報通信機器	105	(△ 78)	△ 30	(29)
計測器	520	(△ 366)	△ 80	(△ 194)
デバイス	15	(△ 71)	△ 25	(△ 32)
産業機械	120	(△ 3)	4	(1)
サービス他	40	(3)	11	(0)

事業セグメント別業績見通し(年度比較)



売上高



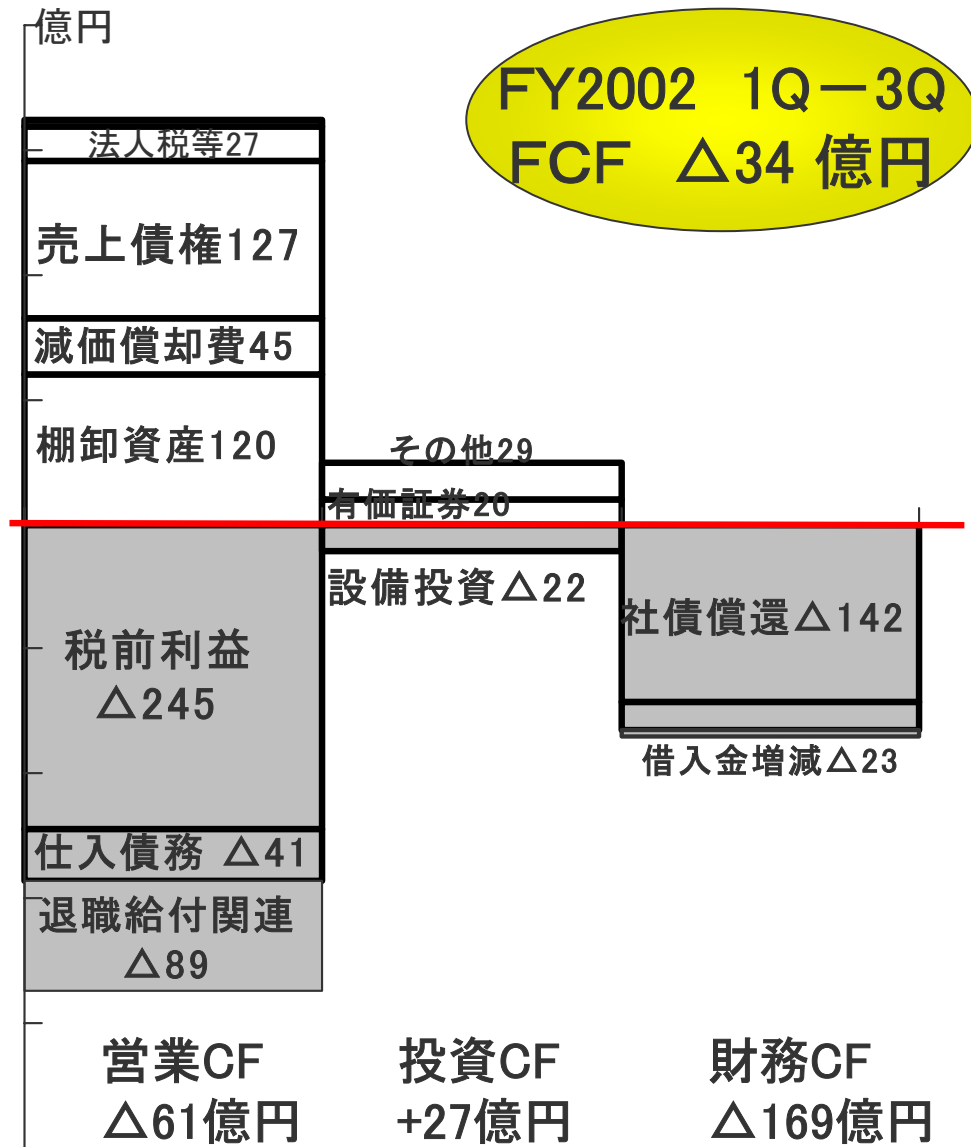
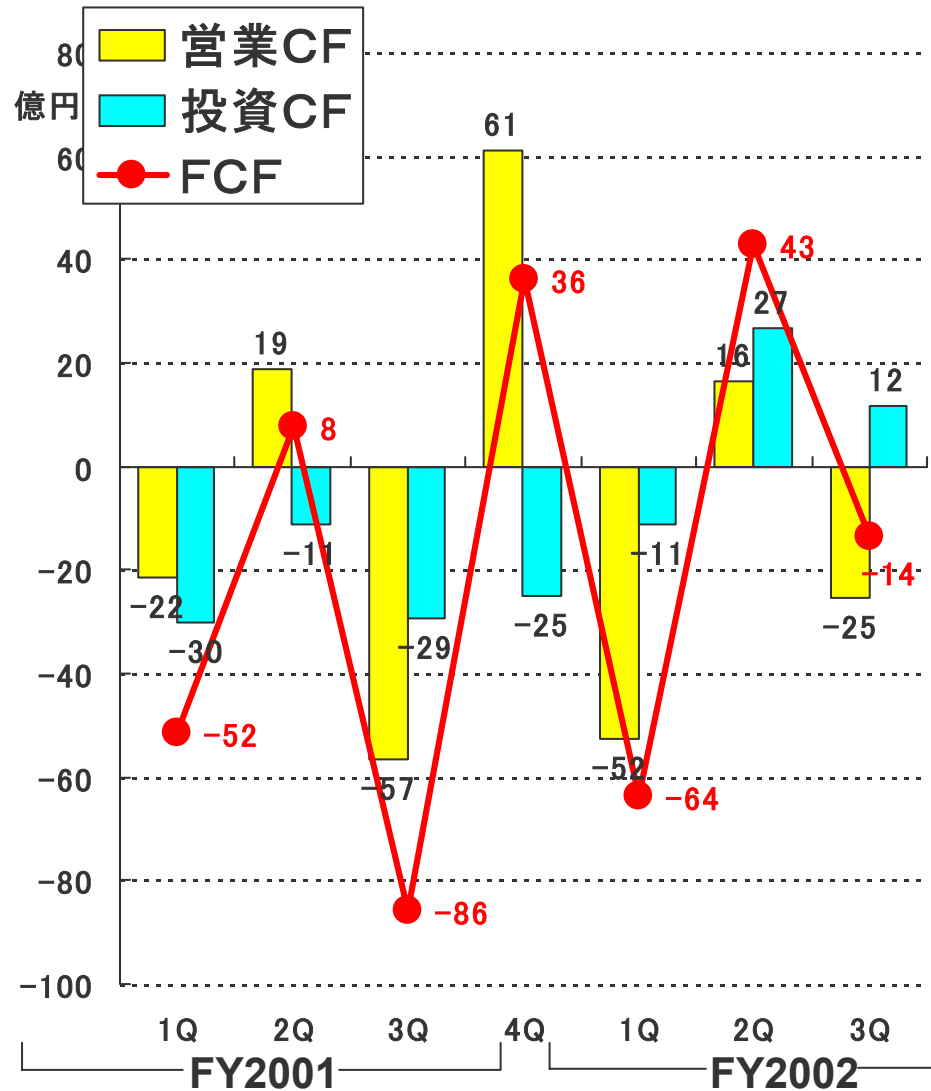
営業利益

連結キャッシュフロー計算書 (億円)

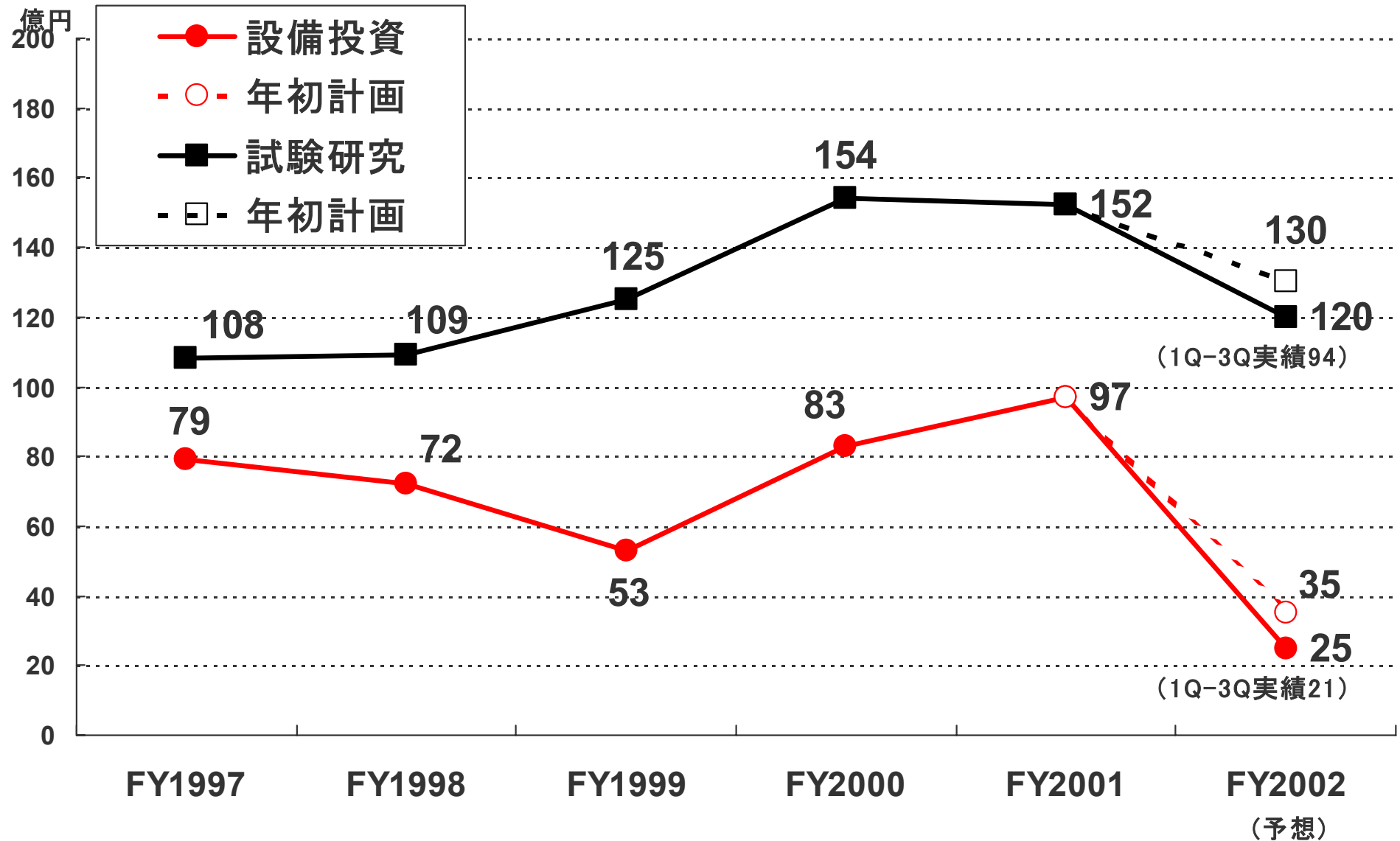
主な項目
のみ表記

	FY2001 ^(1Q-3Q)	FY2001	FY2002 ^(1Q-3Q)
1. 営業活動によるCF	△59	2	△61
税引前利益	77	63	△245
減価償却費	48	67	45
売上債権	299	297	127
棚卸資産	△93	△14	120
仕入債務	△213	△219	△41
運転資本計	△7	64	206
退職給付費用関連	△16	△23	△89
法人税等	△133	△134	27
2. 投資活動によるCF	△70	△95	27
有価証券・投資有価証券	15	15	20
設備投資	△72	△90	△22
テレコム事業売却収入			32
フリーキャッシュフロー(1+2)	△130	△93	△34
3. 財務活動によるCF	18	244	△169
借入金純増減	42	117	△43
CB・SB発行(償還)		150	△142
配当金の支払	△17	△17	△4
現預金の期末残高	134	396	191

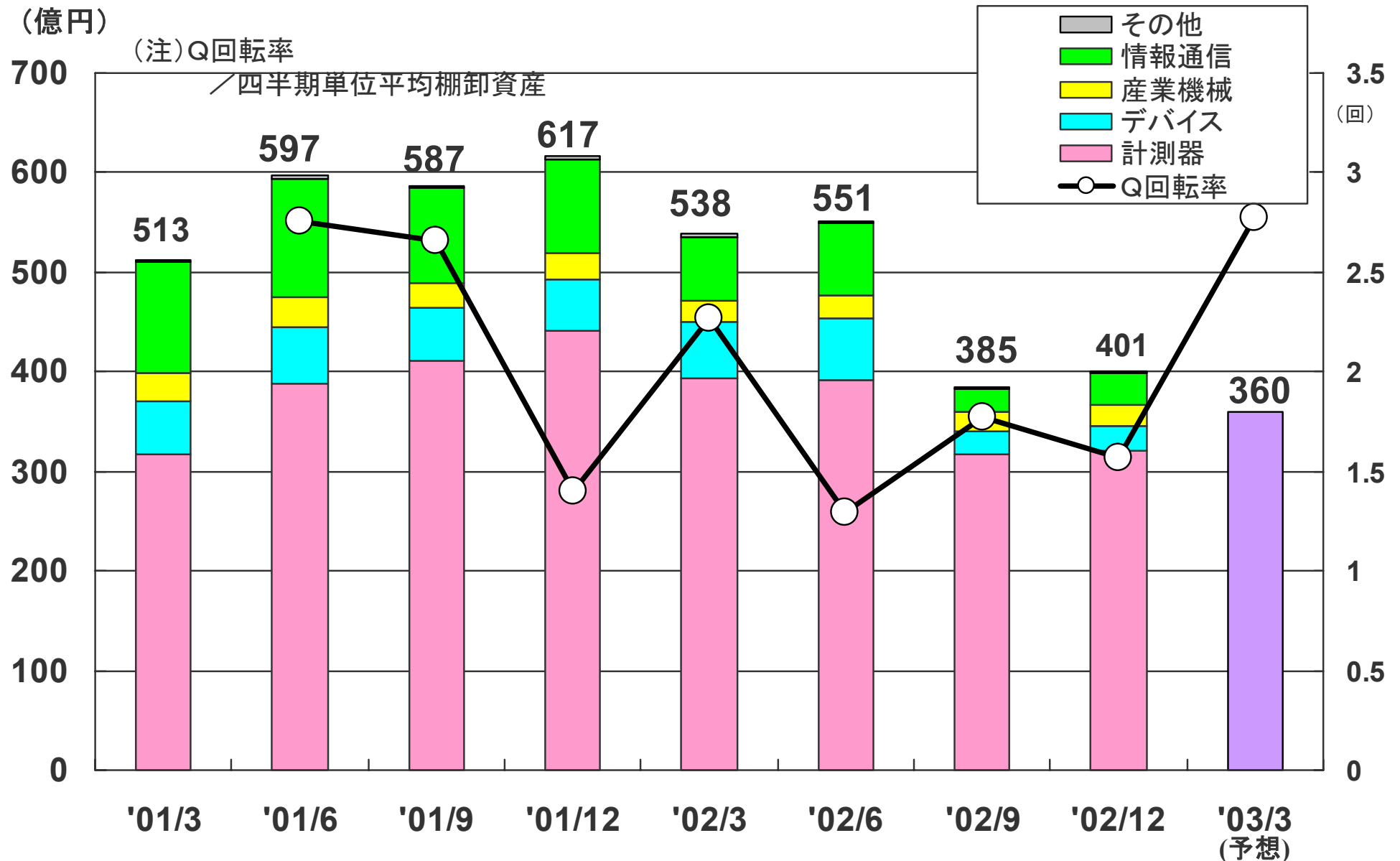
連結キャッシュフロー推移



設備投資額・試験研究費推移



棚卸残高推移(連結)



アンリツ再生計画

2003年1月30日
アンリツ株式会社
社長 塩見 昭

市場の主な状況と見通し

- 携帯電話市場は引き続き堅調に推移、2.5世代、3世代携帯電話は2003年から普及期
- 地上波デジタル放送、ワイヤレスLAN、ワイヤレスIPは導入期
- 光・デジタル通信市場の設備投資は2003年も減少、次世代技術の開発投資は先送り、IP化は加速

業績回復のためにやるべき事

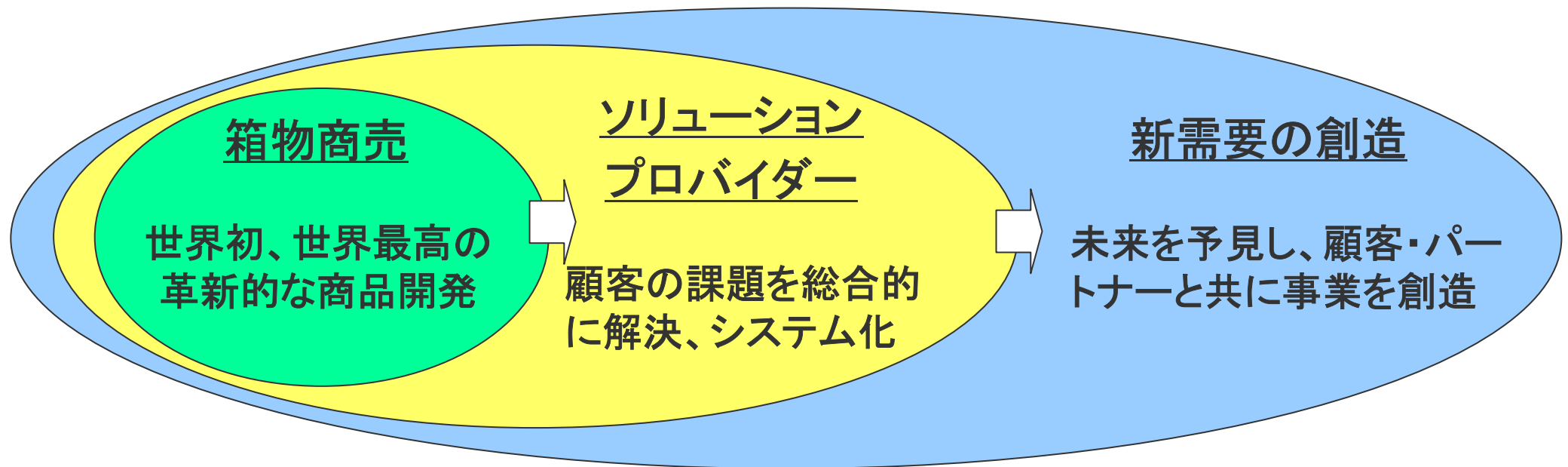
- 2003年度の営業利益ゼロプラスを確保するために
 - 戦略事業の強化と利益化
 - ①戦略事業へのリソースの集中
 - ②「知の製造業」への転換
 - 事業規模に見合うスリム化
 - ③緊急経営構造改革

①戦略事業へのリソースの集中

- 第三世代携帯電話用計測器で世界No.1の地位を堅持し市場の立ち上がりを確実に捉える
- 通信のIP化に呼応し、IP関連事業を強化
 - フォトニックメジャメントの開発リソースの75%を投入
- 映像監視システム事業の拡大
- デジタル放送向けソリューションの提供

②「知の製造業」への転換

- 新事業と顧客価値創造を核とする「知の製造業」への転換は、アンリツのルネッサンス
- 「オリジナル&ハイレベル」「ソリューション営業」「カスタマードリブン」等の取組みの統合



③緊急経営構造改革(1/3)

- 組織体制の見直し
 - 本社、間接部門のスリム化: 22→13*部門
 - 営業部門の再編: 10→4*部門
 - カンパニー制廃止:
 - 3*事業部+2*事業推進部体制
 - 組織のフラット化
 - 社内ベンチャービジネスユニット立ち上げ

* : 現時点の計画

緊急経営構造改革(2/3)

- 製造部門の統廃合で収益力向上
 - 計測器製造部門の東北アンリツ集約
 - コスト圧縮15億円
 - デバイス製造部門の縮小
 - 尾道アンリツの操業停止、製造の棚沢集約
 - コスト圧縮10億円
 - 製造本部部品部(切削・板金加工・ユニット組立)の縮小・独立分社化→コスト圧縮6億円

緊急経営構造改革(3/3)

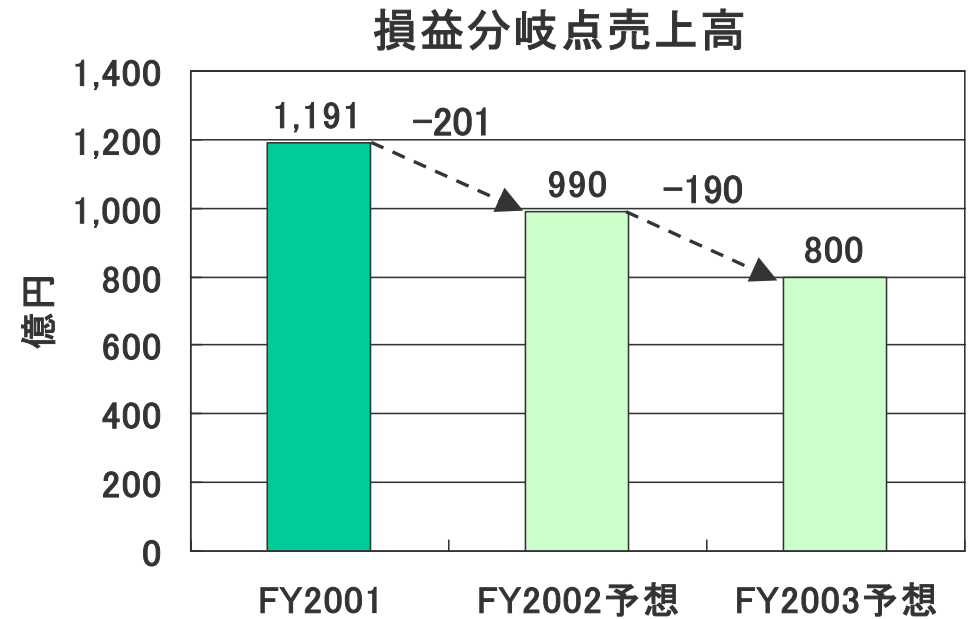
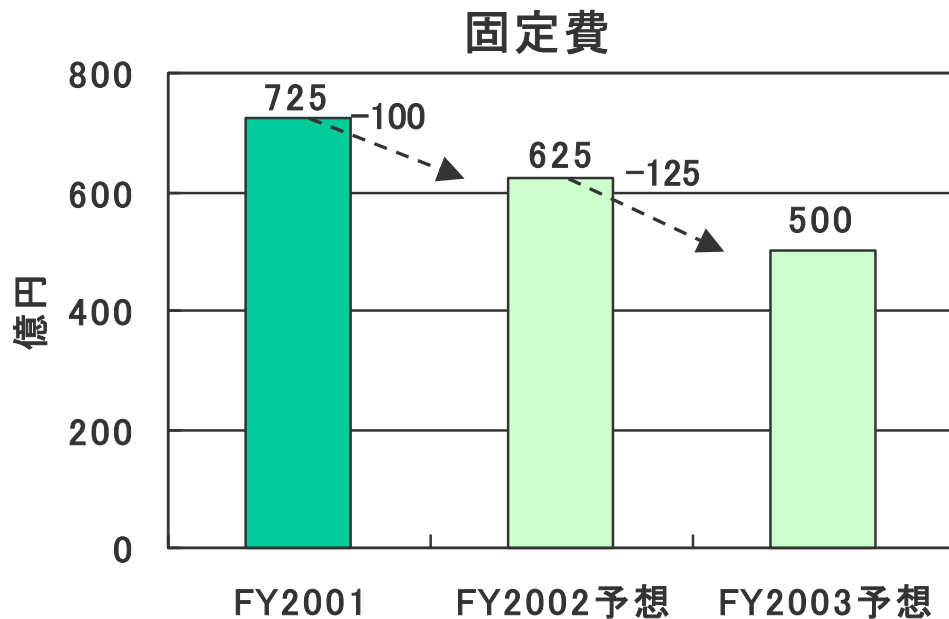
- 本社の厚木移転による経営効率向上
- 不動産売却による財務改善
 - 本社ビル、戸田工場、津久井工場
- 特別転進支援制度の実施

固定費圧縮(連結)

- 今回の緊急経営構造改革 : 100億円
- 実施済施策(FY2002→FY2003) : 25億円



FY2002→FY2003の固定費圧縮計 : 125億円



日程計画

- 転進支援制度募集 2月末
- 新体制発足 4月1日
- 本社の厚木移転 4月末
- 中期経営計画の発表 4月末

注記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、北米、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。